

ネットコミュニティの設計と力

プロジェクトマネジメントコース 矢吹研究室 1442031 小山 隆太郎

今後の日本人の暮らしを「都市型コミュニティ」と「農村型コミュニティ」に分けるとするならば、今後は農村型になっていくのではないのか。これは著者が大学生を対象にして「仕事をするならば都心部に行くか地元がいいか」というアンケートを行ったところ、約5割を占める学生が地元で就職したいという結果になった出来事のこと。10年前の同じアンケート結果より10ポイント上がっているという結果と、著者が実際に関わった学生の証言からそう述べられた。

戦後の日本社会は、農村から都市へと人々は移り、高度経済成長期を経て都市型コミュニティ社会を形成していった。そこでの人々は、家庭や会社以外のつながりが薄い極めてものとなっていた。人々は技術発展することに没頭していくあまり、人と人との関係においては孤立化するようになった。

しかし人と人との孤立化はいずれ廃れていくだろう。実社会においてもネットコミュニティ上においてもコミュニケーションは欠かせないものである。人とのコミュニケーションを介することで自分の居場所を得ることができる。

一概にネットの世界は個人の主張性が強いものといわれている。これはリアルでは話すことはできないが、匿名を利用することで棘の強い主張がネット上でできる自由度の高さからそういえる。2ちゃんねるでは誰かがスレを立てればあっという間に返事が来たり、炎上を起こしたりなど、人がすぐ集まり賑わいが起こる。Twitterにおいてもユーザーはフォロワーを増やそうとする動きがあり、ネットコミュニティにおいても人間関係を求める傾向がある。フォロワーが多いユーザーほど、その人には信頼性と安心感があるように捉えられるのもTwitterならではの点といわれている。

この動きはサル学に通ずるものがある。サルは瞬く間に群れを成して行動を共にする。群れの規模が大きいほどコミュニティに力があり、力が強ければ自然とそこに加わろうとするサルもいる。群れを成さずに孤立したサルは餌も与えられず寒さでも一人では耐えしのぐことが出来ず近いうちに死に行く。

現在の日本の状況は、「臨機応変」といった場に分を合わせる動きが顕著である。集団の内部では周りに気を使ったり同調したりなどする一方で、一歩その集団を離れると誰にも気を使わなくなるといった言動の落差が大きな社会になっている。このことが人々の不安やストレスを高め、年々増加しつつある自殺率といったことも含め、生きづらさや孤独感が背景になっている。

社会が都市型を形成していく一方で人間関係ではギャップが生じ様々な矛盾を生み出す背景になりつつある。人々が2ちゃんねるやTwitterを用いて人間関係を求めていく今日の動きは、自由度の高いネットの世界において、人間が表には出さない本来の姿を出しているのではないかと著者は述べている。そして著者が行ったアンケートの結果から、人々が手を取り合う農村型に考えが変わりつつあるのも、こうした現代の背景があってからこそではないのかと述べている。

SNSでの人々の動向もここ数年の間で急激に変化してきた。2010年前後ではGREEやミクシィが台頭していたが、5年が経過しただけでTwitterやLINEの台頭が目立つようになってきた。

何故このようなことが起こったのか、著者はサービスの展開は恋愛に似通っている部分があると述べている。恋愛は常に何かしらのサプライズが起こらないと平凡なものになってしまう。SNSサービスも同じようにサプライズがなければ平凡化してしまう。Twitterを利用した「ついばら」サービスでの企画立案や、LINEのスタンプ機能などでコミュニケーションを彩ったりといった新規性のあるサービス事業の前でGREEやミクシィは廃れてしまった。

今日のTwitterやLINEの機能も日に日に充実したものになってきている。アンケート機能や他のアプリケーションと共同した様々なサービス展開を行っており、人々は拡張していく機能に満足するかのよう利用している。

実社会とネットコミュニティの人々のやり取りは似通っている部分があり、いずれにしろ人々は人間関係を求めていることが今日の動きである。